2024．2．8．春日部市自治会連合会研修会

これからの自治会のあり方について

放送大学　　玉野　和志

（1）はじめに

* 加入率の低下
* 期待の高まり
* これからのあり方

（2）自治会の現状と課題

* 全国的な動向──戦後三度にわたる危機
* GHQによる解散禁止令
* 1960年代の高度成長期──東京特別区と新興住宅団地における動向
* 2010年以降の首都圏郊外における加入率の急落

（3）春日部市の場合

* 全国的な都市の動向──2000年代以降人口が停滞する首都圏周辺都市
* 人口が漸減傾向にある春日部市
* 加入率も2005年の71.92％から2022年の56.83％へ

（4）自治会が抱える困難──高齢化と担い手不足の中で

* 加入率低下の背景
* 基本的な組織活動に専念できない事情──行政からの期待
* 「何のメリットがあるんですか」という反応

（5）自治会という市民活動団体の独自性

* 一番の特徴としての「全戸加入原則」
* 地域のみんなにとって必要な活動しかできないことの強みと弱み
* どうしても行政が頼ってしまう理由
* 直接のメリットが見えにくい理由

（6）では，どうすればよいか

* つまんなくても地道にやるしかない基本的な組織活動
* 活動は，やるなら誰より担い手自身が楽しめるように
* 負担なだけの活動は思い切って整理することも考える
* 身近な楽しい親睦が一番──連合会が陥りがちな失敗
* 昔ならPTA，これからはICTに中高生や詳しい人の力を

（7）自治会にしかできないこと

* 行政が頼りにせざるをえない理由
* 自ら公的な役割を担い，地域の半数以上を組織している唯一無二の団体
* いざというとき，行政と市民がすんなり協議できる場の提供者
* 極論すれば，具体的な活動はいっさいしなくてもよいのかも……
* 少なくとも，すべてアウトソーシングしてもかまわない
* 行政は市民との協働における役割分担協議の場にできないか